

インマヌエル中目黒キリスト教会

2015年3月15日聖日礼拝

受難節の思い巡らし

「地に落ちて死ぬ」

ヨハネの福音書12章20-26節

竿代照夫牧師



聖書朗読

新約聖書

ヨハネの福音書12章20節-26節

**聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。**

- 20 さて、祭りのとき礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシヤ人が幾人かいた。
- 21 この人たちがガリラヤのベツサイダの人であるピリポのところに来て、「先生。イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。
- 22 ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピリポとは行って、イエスに話した。
- 23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。
- 24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。

26 わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。

説教

受難節の思い巡らし

「地に落ちて死ぬ」

ヨハネの福音書12章20-26節

竿代照夫牧師



主テキスト

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」

(ヨハネ 12 : 24)

A. この言葉の背景（20－23節）

- 1 . 時期：受難週の第一日目または二日目
- 2 . きっかけ：ギリシャ人の来訪
- 3 . 「時」の到来を意識
 - 「時」が来ていない時のイエスの発言
(2:4、7:7-8)
 - 「時」が来ていない時、イエスは守られた
(7:30、8:20)
 - 時の到来を感じた発言
(12:23、27、13:1、17:1)

B. 麦の譬え（24節）

1. 麦とは主ご自身のこと

- ・ 同様な表現：「羊のために命を捨てる羊飼ひ」（10:11）と「人に食べられるパン」（6:51）
- ・ 栄光を受ける（＝贖いを成し遂げる）ために死なねばならない

2. 地に落ちてても死ななければ・・・？

3. 地に落ちて死んだ結果

C . 私達への挑戦 (25 - 26 節)

- 1 . 主の模範に従うこと
- 2 . いのちを「憎む」生き方
 - ・ 自分のアイデンティティを殺すことではない
 - ・ 自己中心を十字架に付けること
 - ・ ヘンリ・ナウエンの例
- 3 . 永遠のいのちに至る

終わりに

**信仰によって死の宣告を行い、
その生涯に生き続けよう**